

## 5. 西郷隆盛を語るキーワード

- 庶民性。威張らず、飾らず、純真素朴な人と生活を喜び、自然で親しみやすい庶民的な人だった。
- 質素儉約・清廉潔白。私生活では贅沢を嫌い、質朴な暮らしを貫く。
- 苦難を恐れない勇敢な気質の持ち主だった。
- 謹厳実直・生真面目。曲がったことが大嫌い。

# 5. 西郷隆盛を語るキーワード

- ・常に周りに目配り、気配りを欠かさない神経の細やかな人物。
- ・崇敬・敬慕の念を自然と起こさせる、人間的魅力を備えていた。
  - \* 西南戦争に従軍し、28歳で戦死した増田宋太郎(中津隊隊長) : 「一日西郷先生に接すれば、一日の愛が生じる。十日接すれば、十日の愛が生じる」
- ・礼儀正しい。丁寧な言葉づかい。

## 5. 西郷隆盛を語るキーワード

- 愛農・愛民思想で社会的弱者に寄り添う人情家

年貢の重さや役人の不正に苦しむ貧しき農民たちに寄り添い、藩庁に農政改革の建白書をたびたび提出するなど、農民たちの負担軽減に尽力した。

# 5. 西郷隆盛を語るキーワード

- 若い頃の特性だが、多情多感で涙もろく、直情径行、直言癖のある、人の好き嫌いが激しい人物だった。特に嫌った人間のタイプは「物欲が強く、人間性の卑しい人物」。
- 要領の悪さ

西郷は手先は器用だったが、生き方は不器用だった。久光など敵対者ともう少し上手な対応の仕方はなかったのだろうか。

西郷：初対面の久光に対して「地五郎＝田舎者」発言。

## 5. 西郷隆盛を語るキーワード

- 平和主義・人命尊重

味方にも敵方にも死者が出るのを避けるため、武力ではなく、知力と**交渉力**を駆使して戦わずして勝つ戦略をとった。

戦いになった場合には、相手が降伏し恭順の意を示したならば、寛容な処理をした。

\* 西南戦争に担ぎ出され、多くの犠牲者を出すことになったのだが.....。

## 5. 西郷隆盛を語るキーワード

### b. 能力

- ・ 情報収集力・分析力

西郷は庭方役を務めた経験から、幅広い情報ネットワークを有していた。必要であれば、側近を派遣して、直接的な情報収集も行っている。

迅速かつ正確な情報の収集が的確な判断の基礎となり、決断力・実行力と相まって時代を動かす原動力となっていた。

- ・ 卓越した交渉力
- ・ 決断力→即断即決
- ・ 行動力

# 西郷のリーダー観

- 政府にあって国の政治をするということは、天地自然の道を行うことであるから、たとえわずかであっても私心を差し挟んではならない。  
(南洲翁遺訓1条)  
\*リーダーの第1条件は「無私」。  
私心を排することが、リーダーにとって最も必要な条件だということを西郷は「遺訓集」で述べている。

# 西郷のリーダー観

- 多くの国民の上に立つ者は、いつも心を慎み、行いを正しくし、奢りや贅沢を戒め、無駄を省いてつつましくすることに努め、仕事に励んで人々の手本となり、一般国民がその仕事ぶりや生活を氣の毒に思うくらいでなければ、政府の命令は行われにくい。(南洲翁遺訓4条)

## 6. 西郷隆盛の国家観

- 政治の根本は、教育文化を盛んにすること、軍備を整えて国の自衛力を強化し、農業を奨励して生活を安定させるという3つである。

そのほかの政治上のこととは、すべてこの3つの課題を実現することにかかわっている。

この3つの課題を後回しにして、ほかのことを先にすることはあり得ないことだ。

(南洲翁遺訓3条)

## 6. 西郷隆盛の国家観

- 欧米各国の制度を採用して日本を開明の域に進めようとするなら、まず前提として国の基本（国柄）を定める必要がある。そのうえで日本に見合った長所を各国の制度のうちから選びとつて採用する。それも急がないことが重要である。何でもかでも模倣すると、日本の国体は衰え、徳も廢れて、救いようがなくなってしまい、結局は欧米の支配を受けるようになってしまうのである。（南洲翁遺訓8条）

\* 農業を基本に据えて、急がず地道な国づくりを目指したところが西郷の特徴。

# 西郷の国家観

- 西郷は日本の伝統を、思想や社会・風俗・家族制度などでは極力残し、西欧からは技術だけを採り入れようとした。  
日本的な伝統文化と西欧の技術を両立させるほうが良い、というのが西郷の基本的な思想。
- 大久保は、日本の伝統文化や社会を崩壊しても工業化を急いで進めないと、世界から立ち遅れて、外国の植民地になってしまう。  
\* 岩倉使節団員としてイギリスを訪問し、現地の工場を見学して、かぶれてしまったもの。欧米の猿まねを急いだ。

## 7. 西郷の外交感覚

- 国のために、正しくて道理のあることをとことん実践して、あとは国とともに倒れてもよいと思うほどの精神がなければ、外国との交際はうまく運ばない。相手国が強大であることに恐れをなして縮こまってしまい、事が起こらないようにと摩擦を避けて、その国の言いなりになるなら、軽蔑や侮りを受け、好ましい交際はかえって破談してしまいにはその国に掣肘を受けることになってしまふものだ。(南洲翁遺訓17条)

## 8. 西郷隆盛 身上調査

- 出生: 1827年(文政10)12月7日、鹿児島城下の下加治屋町に生まれる。
- 死去: 1877年(明治10)9月24日、鹿児島城山にて死去(満年齢49年9か月)
- 名前: 幼名小吉、元服して隆永、のち隆盛、通称は吉之助、号は南洲。  
\* 流島時代は「菊池源吾」「大島三右衛門」を名乗る。

## 8. 西郷隆盛 身上調査(2)

- ・ 身長:5尺9寸8分(約181cm)、体重:29貫(約109kg)
- ・ 趣味:読書、兎狩、坐禅、湯治
- ・ 嗜好:酒はあまり飲まず、どちらかというと甘党。喫煙。
- ・ 好物:豚骨、兎料理、鰻
- ・ 血液型:B型
- ・ 持病:フィラリア症(陰嚢水腫)・肥満からくる胸痛

\* フィラリア:蚊などに媒介され、人・犬などの動物に寄生する糸状虫。

\* フィラリア症:フィラリア感染による疾病。人体ではリンパ腺・管などに寄生。悪寒発熱・頭痛・全身違和が続き、リンパ管閉塞により陰嚢水腫などを呈する。

# 西郷の血液型は？

- 西郷の血液型=B型
- 織田信長=B型
- 伊達政宗=B型
- 坂本龍馬=B型

そしてあとの人の血液型は？

- 安倍晋三=B型
- 大谷翔平=B型

# 血液型判明の理由

- そこには西郷と愛加那との愛のドラマがあった。
- 西郷がいざれは鹿児島に帰り、別離の日が来る  
ことをかねて覚悟していた愛加那は、  
西郷の髪をくしけずる時、抜けた髪の毛を形見に  
と、そつと蓄えていた。
- 後にこの髪が調査され、西郷の血液型がB型  
だったことが判明した。

## 8. 西郷隆盛とその家族

- 父:西郷吉兵衛(小姓組勘定方小頭:西郷家の家格=御小姓与:下から2番目)
- 母:満佐(薩摩藩士・椎原国紀の娘、政子、まさ等の表記も見られる)
- 兄弟:弟3(吉二郎、従道、小兵衛)・妹3(琴、高、安)

## 8. 西郷隆盛とその家族(2)

- 配偶者(3名):
- 須賀(すが:薩摩藩士・伊集院兼寛の姉、1852年結婚－1854年離縁)、
- 愛加那(あいかな:奄美大島・龍家の娘、1859年11月結婚－1862年2月帰藩)
- 糸(いと・糸子とも:薩摩藩士・岩山直温の娘、1865年1月結婚－1877年9月死別)
- 子女(5名):(母・愛加那)菊次郎(第2代京都市長)・菊草(大山誠之助と結婚)
- (母・糸)寅太郎(陸軍大佐)・午次郎(日本郵船)・酉三(30歳で没)

# 西郷3人の妻(最初の妻)

- 須賀(すが: 1852年結婚－1854年離婚)
- 1832年(天保3)4月生まれ。鹿児島城下上之園町居住の伊集院直五郎の長女、伊集院兼寛の姉。
- 1852年(嘉永5)西郷と結婚。
- 結婚した年に、7月西郷の祖父、9月父、11月母が相次いで死去。
- 1854年(安政元)西郷が江戸へ出府。同年の秋頃、須賀が実家に引き取られ、離婚。  
\* 西郷は後々まで、この離婚を悔やんでいたという。

# 西郷3人の妻(2人目の妻)

- ・ 愛加那(あいかな:1837—1902)
- ・ 奄美大島・龍家の娘
- ・ 1859年11月結婚—1862年2月西郷帰藩により別離(2年3か月)。西郷は家を建て、田1反、水田1反を買い与えて、生活に支障がないようにした。
- ・ 1862年(文久2)7月、西郷が帰藩5か月で徳之島に流された際、愛加那是生まれたばかりの菊草を抱き、菊次郎の手を引いて、西郷に会いに来る。
- ・ その数日後に、西郷が沖永良部島に流されることとなり、奄美大島へ戻って行く。